

山形美術館 平成 27 年度事業報告

概要

平成 27 年度の公益事業は、東北 6 県の仏像を紹介する藤森武写真展「みちのくの仏像」を皮切りに、夏に山形新聞・山形放送 8 大事業「高山辰雄《聖家族》と日本画五山展」、秋に 2 年に一度開催している「再興第 100 回院展山形展」、冬には終戦の翌年から開催され本年 70 回を数えた県美展の記念展として「県美展をいどった作家たち」を開催した。このうち、「みちのくの仏像」と「高山辰雄《聖家族》と日本画五山展」は、「平成 27 年度 文化庁 文化芸術グローバル化推進事業」の助成を受けた「山形県文化芸術創造発信事業」の一環として実施した。さらに山形県民の美術振興を図る 3 県展と、収蔵品によるテーマ展「収蔵写真展」と「吉野石膏コレクション 印象派の光とシャガール《ダフニスとクロエ》」、常設展による収蔵品展事業、また美術に関する創作活動を行っている個人・団体に対する 22 の展示施設貸与事業を行った。そのほかドイツ・ボンで開催された「日本が愛した印象派」展への出品など収蔵品の館外貸出による他機関への協力、大学生の実習生の受け入れ指導などを実施した。

これら公益事業関連の展覧会総入場者数は 82,405 人となった。平成 26 年度 80,925 人と比較すると、企画展事業と収蔵品展事業で 5,158 人の減少、展示施設貸与事業で 6,638 人の増加、合計で 1,480 人の増加となった。

収益事業では、企画展に合わせたミュージアムグッズの取扱を実施した。

法人運営および施設管理では、大型展開催期間の温湿度等の環境管理に努めた。

1. 公益事業

企画展事業

山形県民はじめ広く美術愛好者に国内外の優れた美術作品および関連資料を鑑賞する機会を提供する事業を行った。

4月11日 5月10日 藤森武写真展「みちのくの仏像」

魅力的な仏像の宝庫として知られる東北各地の国宝や重要文化財、県指定有形文化財に指定されている仏像の写真、土門拳の内弟子であった藤森武の写真 100 点、土門拳が中尊寺で撮影した 8 点で紹介した。各県ごとの展示により、地域や時代ごとの特徴をわかりやすく紹介、なかでも 50 年ごとに公開される秘仏や被災した仏像の写真、また東北を代表する名刹・寒河江慈恩寺の十二神将の写真を屏風仕立てにした作品などが注目を集めた。会期中 4 月 11 日、25 日、5 月 10 日に藤森武氏、5 月 2 日に担当学芸員によるギャラリートークを実施。展示作品のほか東北の仏像に関する論文や主要な仏像の解説を収録した展覧会図録もあわせ、東北各地の代表的な仏像の魅力を紹介するとともに、震災の復興が途上にある東北で、先人が仏像に託した思いや、心の拠り所の存在、さらに「みちのく」の意味をあらためて問い直す機会とした。

7月23日-8月23日 高山辰雄《聖家族》と日本画五山展

吉野石膏株式会社から新たに寄託された高山辰雄の代表作《聖家族》26 点と同名の銅版画 16 点の全点を東北で初めて展示するとともに、吉野石膏株式会社と吉野石膏美術振興財団が所蔵するコレクションから、高山辰雄に加え日本画壇を代表する東山魁夷、杉山寧、加山又造、平山郁夫の「日本画五山」の作品 72 点を展示。また会期中 8 月 9 日に高山由紀子氏による記念講演会「父 高山辰雄」、8 月 2 日、22 日に天童市美術館館長池田良平氏、16 日に担当学芸員によるギャラリートーク、さらに 8 月 1 日に東北芸術工科大学総合美術コースによるワークショップ「作ってかざろう！ 海の仲間たち」を実施した。人間存在を追求し続けた高山辰雄の世界を多面的に紹介するとともに、現代日本画の世界に大きな足跡を残した画家らの魅力を探る機会とした。また、やまがた広域観光協議会が実施する「YAMA コレ やまがた夏の 3 美術館めぐり」に参加し、収蔵品の活用連携に努めた。

8月29日-9月13日 第70回山形県総合美術展

山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。1946(昭和21)年6

月の第1回展開催以来、70回展を迎えた。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門に搬入された618点を、大矢紀(日本画)、佐藤哲(洋画)、池田宗弘(彫刻)、赤沼潔(工芸)の4氏が厳正に審査。会場には、入賞・入選、審査員、委嘱、無鑑査の作品、東北芸術工科大学教員の招待作品をあわせ464点を展示した。複数の部門に出品する作家、日々取り組んでいる主題や新しい表現に挑戦した作品など多彩な作品が目立った。今年で57回となるこども県展には、県内の園児、小中生から14,359点の応募があった。東京学芸大学准教授・西村德行氏が、自分の伝えたいことや自分の表現を大切にしている点を基準に審査し、3階に入賞・入選781点を展示。豊かな表現に溢れる会場は、幅広い多くの県民を対象とした秋の芸術シーズンの到来を告げるものとなった。

9月19日-9月27日 第40回山形県総合書道展

山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し開催している本展は1975年の第1回展開催以来、40回を迎えた。今回は、漢字・かな・調和体・近代詩文・少字数・刻字・篆刻の7部門に、高校生から90歳代までの幅広い年代の書家・書道家から、一般公募306点、役員・会友384点をあわせ690点の作品が搬入された。県内の植松弘祥、荒木扁舟、鈴木千岳、青柳祥雲、工藤江苑、斎藤菖園、渡部梅祥、渡辺大洲の8氏による一次審査の後、40回展記念として審査員長に招いた星弘道氏により県知事賞など入賞13点、奨励賞15点、褒状30点、入選224点が厳正に選抜された。会場には入賞・入選作に審査員、役員、会友の書作を加え615点を展示。漢詩作品を中心に、流麗なかな文字や紙の余白を生かした大胆な少字数、緊張感みなぎる線質の作品や古典を踏まえた作品など、各部門とも40回の節目にふさわしい多彩な内容となった。9月19日の開展式に続き、植松弘祥氏による作品解説会、27日には美術評論家・菅原教夫氏による特別講演会を実施した。

11月7日-11月23日 再興第100回院展山形展

1898(明治31)年に岡倉天心、橋本雅邦、横山大観、菱田春草らによって、新しい時代の美術を目指して創立された日本美術院は、1914年の再興展開催以来、本年で100回展を迎えた。理事長の松尾敏男をはじめ、米沢市出身の故福王寺法林の次男福王寺一彦、田淵俊夫、西田俊英ら日本画壇を代表する作家から東北芸術工科大学の教員、学生、卒業生の作品など合わせて100点を展示した。11月7日には開展式に引き続き、福王寺一彦、今井珠泉、芸工大教授・番場三雄各氏による作品解説会、11月23日福王寺一彦氏によるギャラリートークのほか、11月13日に山形交響楽団メンバーによるギャラリートークコンサート、11月14日にワークショップ「日本画を楽しもう!」などを実施した。また100回展を記念し、当館が収蔵する小松均、今野忠一、福王寺法林、松本哲男ら本県ゆかりの院展同人(故人)の作品4点と小松均の映像も合わせて紹介。現代日本画の多彩な展開や、院展と山形との関係を知る機会とした。

12月10日-28年1月31日 県美展をいろうった作家たち

1946(昭和21)年6月に第1回展が開催された山形県総合美術展覧会(県美展)が70回展を迎えたのを記念し、山形市や県、当館が収蔵する作品から、県美展草創期に活躍した作家85名の日本画、洋画、彫刻、工芸153点を展示した。出品作品、作家略歴、1回から10回展までの山形新聞に掲載された展評などを収録した作品集の刊行や、会期中1月10日工藤道汪氏、17日菅井正明氏、23日横倉晋也氏、24日設楽雅信氏、31日工藤道汪氏ら山形県美術連盟役員による各部門のギャラリートークを実施。終戦後の混乱と不安の中、山形県の文化復興を願って創設された県美展の原点と歴史を振り返るとともに、その後の展開と山形の美術の未来を展望する機会とした。

2月25日-3月21日 第50回山形県写真展

山形県写真展は、県内の写真愛好家の質的向上と相互交流を目的に1967年1月に第1回展を開催。世相や時代の変遷による出品内容の変化、またフィルムからデジタルカメラへの移行などを反映しながら、今年50回展を迎えた。本展には、20歳代から80歳代までの625名から2,544点の一般公募作品が搬入。写真家の蜂須賀秀紀氏による2日間にわたる公開審査によって、入賞13点、準入賞10点、努力賞10点、入選513点が選ばれた。会場には公募作品に加え、審査員と無鑑査、過去の県知事賞受賞作品など、計580点を展示。山形の地域性に溢れる四季の風景や、デジタルの機能を生かした星空の写真、祭事や家族のスナップなど、

撮影意図が伝わる多彩な写真が並んだ。2月25日の開展式に続き、県写真連盟会長・阿部直美氏による受賞作を中心とした解説会を実施。県写真展の変遷と今後の写真表現のあり方を考える機会とした。

収蔵品展事業

山形美術館では、フランス近代美術、日本の美術、山形県関係美術を3本柱に美術作品および関連資料の収集と調査研究を進めている。これら収蔵品の一部を常設展示しているほか、27年度には以下のテーマ展を開催し、収蔵品を紹介した。

4月11日-5月10日 吉野石膏コレクション 印象派の光とシャガール《ダフニスとクロエ》

吉野石膏株式会社と吉野石膏美術振興財団より当館に寄託されている作品より、ピサロ、モネ、シスレー、ルノワールら印象派の作品と、シャガールの作品を中心に同コレクションの魅力を紹介した。通常、コレクションを展示している2階の部屋に、シャガールの版画を代表する《ダフニスとクロエ》42点を展示。3年をかけ、20色以上を用いたリトグラフによる本シリーズで、鑑賞者に色彩画家としてのシャガールの魅力を十分に伝えるとともに、フランス近代絵画の多彩な表現に触れる機会とした。

10月8日-10月18日 収蔵写真展 飛塚英寿「出羽の里びと」

山形国際ドキュメンタリー映画祭期間にあわせ、山形県写真連盟顧問・飛塚英寿氏が1960-70年代の山形を記録したモノクロ写真105点を展示。救命具を着け渡し舟通学する児童や住み慣れた故郷を去って街に出る家族など、戦後の近代化の波が押し寄せる山形の農村の暮らしの記録(現実)を紹介し、生活綴方運動、映画、テレビ・ドキュメンタリーなど、さまざまな「記録」が多彩に展開した時代を振り返った。

収蔵品展事業による、本年度新収蔵品は寄贈8件、寄託60件である。高嶋祥光の戦前の中国旅行時のスケッチ、菅野矢一が疎開中に描いた最上川風景、佐藤助雄の日展に出品した木彫などを受贈。吉野石膏株式会社より、高山辰雄の《聖家族》シリーズの版画と日本画など43点、遺族より奈良村正史の油彩など17点を受託。今期末での寄託品を除く収蔵品件数は、基本財産収蔵品の一般正味財産(購入)505件、指定正味財産(寄贈)1,039件、合計1,544件となった。

展示施設貸与事業

美術に関する創作活動を行っている個人および団体に対し、当館の展示室と展示用備品を貸与する事業を行った。27年度は、日展山形会展、春光会展、キャシー中島キルト展、北展、樺墨書院展、示現会山形展、毎日書道展東北山形展、山形国際ドキュメンタリー映画祭、山形市芸文協総合展、読売書法展東北展、墨華会書道展、山形大学造形芸術コース卒業修了制作展、山形デザイン専門学校卒業進級制作展、山形県健康福祉祭美術展など、22の展覧会を開催した。

その他

収蔵品を活用した事業や指導など以下の事業を行った。

1. 収蔵品館外貸出による他機関への協力

「先賢の書」(致道博物館)、パラミタミュージアムから巡回を開始した「北斎の富士」(2016年度まで全5会場)、「北前船」(新潟県立歴史博物館、兵庫県立歴史博物館)、「生誕100年今野忠一」(天童市美術館)、「山形の郷土作家油絵展」(真下慶治記念美術館)、「ピカソ展 誰でもわかる天才の名画」(ふくやま美術館)、「ドイツのボンで開催された「日本が愛した印象派」」、「吉野石膏コレクション 愛と絆」(日本橋三越)など、他機関の企画展に対し収蔵品の貸出協力を行った。

2. 「YAMA コレ2 やまがた夏の3美術館めぐり」への参加

昨年度に引き続き、やまがた広域観光協議会が実施した「YAMA コレ2 やまがた夏の3美術館めぐり」に参加。山寺後藤美術館、広重美術館と収蔵品を生かして連携し、相互周知と県内外の美術愛好家の周遊を促すよう努めた。

3. 博物館実習生の受け入れと指導

東北芸術工科大学5名、専修大学、秋田公立美術大学、盛岡大学各1名、計8名をのべ5日間ずつ受け入れ、作品展示の方法、美術館の機能と業務概要、資料の保存管理、地域における美術館のあり方などについて指導した。

4. 美術教育普及活動への協力

やまがたアートライン実行委員会が主催する「夏休みこどもミュージアムめぐり」事業の一環として、8月1日に東北芸術工科大学芸術学部総合美術コースの松村泰三研究室とキッズ・アーティスト・プロジェクト「つくって、かざろう！ 海の仲間たち」を実施。また山形青年会議所OBの山形ビューティフルコミッションによる「児童絵画鑑賞プログラム」を11月21日に実施、幼児を対象に美術鑑賞のマナーと絵の見方を体験した。また、来館の児童生徒団体で希望がある場合、適宜館概要や作品解説を行なった。

5. 吉野石膏コレクションの調査

吉野石膏コレクション作品に対する状態調査を森絵画保存修復工房と共同で、4月と8月の2回、のべ6日間実施した。作品1点ごと、作品の表裏、支持体と額の確認に加え、紫外線や赤外線による撮影などによる作品調査を行なった。今後の作品研究やコレクション展のテーマの立案や修復計画の基礎資料とした。

6. 収蔵作品の調査・修復

作者不明の油彩画「ナイヤガラ瀑布図」（長谷川コレクション、1995年度収蔵）、桜井浜江の油彩画「赤い風景(人物)」（1940年制作、1979年度収蔵）、の2点について、東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターとの共同調査に基づき、修復処置を実施した。それぞれに作品の状態に最適な処置を検討実施し、作品本来の安定性を回復するとともに、制作年代の推測、作家の技法上の特徴を理解する機会となった。

2. 収益事業

山形城址が眺められる喫茶室は昨年より有料の飲料自動販売機を設置し、作品鑑賞後に気軽に利用できる休憩室に変更した。また美術関係の書籍やグッズを販売するコーナーでは、展示に関連するグッズ、山形ゆかりの作家による工芸品などの販売物を引き続いて取り扱った。

3. 法人運営および施設管理

収蔵品や企画展開催中の作品管理のための温湿度等の環境管理のほか、施設の維持管理に努めた。

4. 成果と課題

本年度は、県内の美術愛好家を対象とする3県展が節目の年を迎えた。企画展において昨年度に続き「山形県文化芸術創造発信事業」により東北・山形や、当館収蔵品に関わりのある自主企画展の内容を充実したほか、収蔵品展も含めた公益事業を予定通り実施し、前述のとおり各事業の目的を達成できた。だが東日本大震災以後、落ち込んだ入館者数の回復に至らない厳しい状況が依然として続いている。本年もやまがた広域観光協議会による「YAMAコレ2 やまがた夏の3美術館めぐり」への参加による他館との連携や、ホームページでのこまめな情報更新による広域からの観光客の取り組みを試みたが、今後も引き続き、他機関との相互連携や効果的な広報・宣伝に努めていきたい。

質の高い美術と出会う場、企画内容・対象者に応じた多様な教育普及事業や、地域機関との連携強化、来館者および地域のニーズの把握に努め、山形美術館の50年の歴史と実績を踏まえた活動を着実にこなしていきたい。

平成27年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

【企画展】

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
藤森武写真展 みちのくの仏像	4月11日～ 5月10日	2,816	83	34	918	3,851	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市、県芸術文化協会、市芸術文化協会、ニコン、ニコンイメージングジャパン、堀内カラー	4月11日、25日、5月10日に藤森武氏、5月2日に担当学芸員によるギャラリートークを行った。 (*一般に大学生入場数含む)
吉野石膏コレクション 印象派の光とシャガール 《ダフニスとクロエ》	4月11日～ 5月10日	2,816	83	34	918	3,851	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市	1階企画展示室と常設展示室を使用して吉野石膏コレクションの中から印象派の作品とシャガールの作品を中心に展覧した。5月5日担当学芸員によるギャラリートークを行った。
高山辰雄《聖家族》と 日本画五山展	7月23日～ 8月23日	5,838	132	203	1,764	7,937	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、山形市教委、県芸術文化協会、山形市芸術文化協会	8月1日、東北芸術工科大学総合美術コースの協力によるワークショップ、8月2日、22日、天童市美術館長の池田良平氏のギャラリートーク、8月9日高山辰雄長女の高山由紀子氏の記念講演会、8月16日、担当学芸員のギャラリートークを行った。
第70回山形県 総合美術展	8月29日～ 9月13日	4,064	249	527	2,251	7,091	山美、山新、山放、県美術連盟、山形県、県生涯学習文化財団、市教委、県芸術文化協会、県造形教育連盟、べんてる株式会社	大矢紀(日本画)、佐藤哲(洋画)、池田宗弘(彫刻)、赤沼潔(工芸)の4氏による審査が行われた。また、こども県展を併催。
第40回山形県 総合書道展	9月19日～ 9月27日	556	16	25	1,302	1,899	山美、山新、山放、山形県総合書道会、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、市教委、山形県書道連盟、県芸術文化協会	40回を記念として星弘道氏を審査員長に迎え、植松弘祥、荒木扁舟、鈴木千岳、青柳祥雲、工藤江苑、齋藤蒼園、渡部梅祥、渡辺大洲ら9氏による審査。9月27日菅原教夫氏による特別講演会を行った。
再興第100回院展 山形	11月7日～ 11月23日	2,541	107	49	1,341	4,038	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市、日本美術院	11月7日福王寺一彦、今井珠泉、番場三雄各氏による開展記念作品解説会、13日に山形交響楽団メンバーによるギャラリートークコンサート、14日に番場三雄氏によるワークショップ、23日に福王寺一彦によるギャラリートークを行った。
県美展をいどった 作家たち	12月10日～ 1月31日	3,091	477	89	1,851	5,508	山美、山新、山放、県美術連盟、山形市、山形県、県生涯学習文化財団、県芸術文化協会、市芸術文化協会	山形県美術連盟役員らの協力のもと、1月10日工藤道汪氏、1月17日菅井正明氏、1月23日横倉晋也、1月24日設楽雅信氏、1月31日工藤道汪氏によるギャラリートークを行った。
第50回山形県 写真真展	2月25日～ 3月21日	1,920	69	83	3,257	5,329	山美、山新、山放、山形県写真連盟、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、市教委	2月13、14日蜂須賀秀紀氏による公開審査、2月25日開展式と写真連盟会長の阿部直美氏による解説会を行った。
企画展 計(A)		23,642	1,216	1,044	13,602	39,504		

平成27年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

【収蔵品展など】

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
収蔵写真展	10月8日～ 10月18日	554	38	17	69	678	山美、山新、山放、山形市	平成20年に寄贈された飛塚英寿の写真作品「出羽の里びと」105点を展示した。
常設展示のみ ・巨匠の広場 ・吉野石膏コレクション室 ・新海竹太郎/竹蔵彫刻室 ・長谷川コレクション室 ・彫刻の小部屋	4月1日～ 4月8日	87	7	8	11	113		
	5月12日～ 5月17日	105	7	-	36	148		
	5月20日～ 5月31日	1,992	18	11	683	2,704		
	6月2日～ 6月23日	359	14	7	56	436		
	6月27日～ 7月5日	944	20	46	923	1,933		
	7月8日～ 7月12日	93	15	1	12	121		
	7月15日～ 7月19日	215	15	22	848	1,100		
	9月1日、 9月27日	29	-	-	-	29		
	9月30日～ 10月4日	200	3	26	1,967	2,196		
	10月21日～ 10月25日	126	4	4	30	164		
	10月28日～ 11月1日	239	-	6	1,239	1,484		
	11月3日～ 11月29日	127	34	4	9	174		
	12月1日～ 12月6日	61	24	-	21	106		
2月3日～ 2月21日	230	33	9	86	358			
3月25日～ 3月29日	57	10	7	7	81			
収蔵品展計(B)		5,418	242	168	5,997	11,825		

館主催展計(C=A+B)		29,060	1,458	1,212	19,599	51,329		
--------------	--	--------	-------	-------	--------	--------	--	--

平成27年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

[展示施設貸与事業など]

事業名	期間	一 般	入 場 者 数				主催、共催、後援など	備 考
			高・大生	小・中生	会員・招待	計		
謙 慎 書 道 会	5月15日～ 5月17日	395	-	-	-	395	謙慎書道会	
春 光 会 展	5月27日～ 5月31日	787	-	-	-	787	春光会	
日 展 山 形 会 展	5月20日～ 5月31日	1,992	18	11	683	2,704	日展山形会、山形新聞・山形放送	
創 琢 書 道 展	6月4日～ 6月7日	660	-	-	-	660	創琢書道会	
キ ャ シ ー 中 島 キ ル ト 展	6月10日～ 6月14日	4,176	-	-	-	4,176	スタジオ・ケイグループ	
北 展 (会 員 ・ 会 友)	6月17日～ 6月21日	261	111	55	529	956	東北現代美術協会	
山 形 県 民 書 道 展 ふ れ あ い	6月27日～ 7月5日	944	20	46	923	1,933	山形県民書道会	
樺 墨 書 院 展	7月8日～ 7月12日	1,190	-	-	-	1,190	樺墨書院	
示 現 会 山 形 展	7月15日～ 7月19日	215	15	22	848	1,100	示現会、示現会山形支部	
毎 日 書 道 展 東 北 山 形 展	9月30日～ 10月4日	200	3	26	1,967	2,196	毎日新聞社、毎日書道会	
国 際 ド キ ュ メ ン タ リ ー 映 画 祭	10月9日～ 10月14日	3,101	-	-	-	3,101	国際ドキュメンタリー映画祭事務局、山形市	
北 展 (公 募)	10月21日～ 10月25日	275	4	13	495	787	東北現代美術協会	
山 形 市 芸 文 協 会 総 合 展 覧 会	10月21日～ 10月25日	3,110	-	-	-	3,110	山形市、市教委、市芸術文化協会	
読 売 書 法 展 東 北 展	10月28日～ 11月1日	239	-	6	1,239	1,484	読売新聞社、読売書法会	
MOA美術館山形県 児童 作 品 展	11月14日～ 11月15日	882	-	-	-	882	MOA美術館山形県児童作品展実行委員会	
翔 龍 会 全 国 書 道 展	11月20日～ 11月23日	468	-	-	-	468	翔龍会	
東 邦 書 道 会 全 国 展	11月26日～ 11月29日	563	-	-	-	563	東邦書道会	
墨 華 会 書 道 展	12月3日～ 12月6日	1,101	-	-	-	1,101	墨華会	
山形大学造形芸術コース 卒業修了制作展	2月3日～ 2月7日	458	-	-	-	458	山形大学地域教育文化学部文化創造学科造形芸術コース	

平成27年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
誠筆書展	2月4日～ 2月7日	1,071	-	-	-	1,071	誠筆会	
山形デザイン専門学校 卒業進級制作展	2月17日～ 2月21日	884	-	-	-	884	山形デザイン専門学校	
山形県健康福祉祭 美術展	2月18日～ 2月21日	1,070	-	-	-	1,070	山形県、山形県社会福祉協議会、山形県老人クラブ連合会	
展示施設貸与事業計(D)		24,042	171	179	6,684	31,076		

全展覧会総計(E=C+D)		53,102	1,629	1,391	26,283	82,405		
---------------	--	--------	-------	-------	--------	--------	--	--

平成 27 年度新収蔵品リスト

平成 28 年 3 月 31 日現在

寄贈

作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)
高 嶋 祥 光	ハ ル ピ ン 駅 覧 図	1941	紙 本 ・ 墨 画	27.1×24.0
高 嶋 祥 光	松 図	1951	紙本・墨画・淡彩	34.5×134.5
高 嶋 祥 光	写 生 帖	1941	紙本・墨画・鉛筆	15.6×10.5
米 本 豊 司	色 紙 (梅)	不詳	紙 本 ・ 着 色	27.3×24.4
米 本 豊 司	色 紙 (小 鳥)	不詳	紙 本 ・ 着 色	27.2×24.1
菅 野 矢 一	最 上 川 新 秋	1950	キャンバス・油彩	45.5×60.6
菅 野 矢 一	無 題		紙 ・ コ ン テ	29.9×23.5
佐 藤 助 雄	光 に 立	1950	木 彫	高 161.0×幅 45.0 奥行 39.0

以上の美術品 8 件を基本財産収蔵品(不可欠特定財産)とする

寄託

作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)
高 嶋 祥 光	松 花 江 図	1941	絹 本 ・ 著 色	44.0×51.0
奈 良 村 正 史	椿	1971	紙 本 ・ 彩 色	31.6×40.7
高 山 辰 雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	53.3×39.5
高 山 辰 雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	116.7×72.9
高 山 辰 雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	90.9×116.7
高 山 辰 雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	90.9×116.7
高 山 辰 雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	90.9×116.7
高 山 辰 雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	145.5×112.1
高 山 辰 雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	112.1×145.5
高 山 辰 雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	90.9×116.7
高 山 辰 雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	116.7×90.9

高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	90.9×116.7
高山辰雄	聖 家 族 XI	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	90.9×116.7
高山辰雄	聖 家 族 XII	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	145.5×112.1
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	116.7×90.9
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	116.7×90.9
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	145.5×112.1
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	116.7×90.9
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	145.5×112.1
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	112.1×145.5
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	145.5×112.1
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	90.9×116.7
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	116.7×90.9
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	116.7×90.9
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	145.5×112.1
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	90.9×116.7
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	145.5×112.1
高山辰雄	聖 家 族	1993	紙 本 ・ 黒 群 緑	145.5×112.1
奈良村正史	静 物	1925	キャンバス・油彩	22.8×31.8
奈良村正史	ジ ャ ワ の 女	1930	キャンバス・油彩	60.2×50.1
奈良村正史	曇日苗代（楯山村風間）	1950	キャンバス・油彩	50.5×65.3
奈良村正史	蔵 王 初 秋	1963	キャンバス・油彩	60.6×72.7
奈良村正史	春 耕	1965	キャンバス・油彩	45.5×53.0
奈良村正史	雨後「山道をゆく」	1971	キャンバス・油彩	45.5×53.0
奈良村正史	金 谷 風 景	1975	キャンバス・油彩	45.7×53.2
奈良村正史	田 畑 風 景		キャンバス・油彩	56.0×68.0

奈良村正史	静物（柿三つ）			キャンバス・油彩	19.6×33.7
奈良村正史	静物（菊）			キャンバス・油彩	53.3×46.0
奈良村正史	牡	丹		キャンバス・油彩	45.5×37.9
奈良村正史	静物（ホオズキ）			キャンバス・油彩	40.9×31.8
奈良村正史	老	人		キャンバス・油彩	33.4×24.3
奈良村正史	風	景		キャンバス・油彩	27.0×40.5
高瀬捷三	静物（秋の果物）	1928		キャンバス・油彩	25.2×41.7
高山辰雄	聖家族	1	1976	紙・エッチング	14.7×18.0
高山辰雄	聖家族	2	1976	紙・エッチング	32.6×23.5
高山辰雄	聖家族	3	1976	紙・エッチング	36.0×29.0
高山辰雄	聖家族	4	1976	紙・エッチング	36.0×29.0
高山辰雄	聖家族	5	1976	紙・エッチング	36.3×29.3
高山辰雄	聖家族	6	1976	紙・エッチング	35.3×28.8
高山辰雄	聖家族	7	1976	紙・エッチング	32.1×23.3
高山辰雄	聖家族	8	1976	紙・エッチング	36.3×29.8
高山辰雄	聖家族	9	1976	紙・エッチング	32.7×23.8
高山辰雄	聖家族	10	1976	紙・エッチング	25.8×34.2
高山辰雄	聖家族	11	1976	紙・エッチング	28.8×35.8
高山辰雄	聖家族	12	1976	紙・エッチング	23.8×32.8
高山辰雄	聖家族	13	1976	紙・エッチング	29.7×36.4
高山辰雄	聖家族	14	1976	紙・エッチング	23.3×32.3
高山辰雄	聖家族	15	1976	紙・エッチング	23.8×32.5
高山辰雄	聖家族	16	1976	紙・エッチング	26.3×34.5
高山辰雄	聖家族直筆看板		1976	紙本・黒群緑	169.5×104.7

平成 27 年度収蔵品貸出一覧

作 者 名	作 品 名	借 受 館 又 は 借 受 者	貸 出 事 由	貸 出 期 間
伊 藤 仁 斎	一行書「深造自得」 など4点	致 道 博 物 館	先 賢 の 書	5/14-6/25
松 尾 芭 蕉	出 羽 三 山 短 冊	山 寺 芭 蕉 記 念 館	ス サ ノ ラ の 到 来 - いのち、いかり、いのり	5/29-6/25
萬 鉄 五 郎	かなきり声の風景	萬鉄五郎記念美術館 茅ヶ崎市美術館	棟方志功 萬鉄五郎に首ったけ	6/26-11/7
横 山 華 山	紅 花 屏 風	新潟県立歴史博物館 兵庫県立歴史博物館	「 北 前 船 」 展	7/14-11/11
今 野 忠 一	火 山 湖	天 童 市 美 術 館	生 誕 1 0 0 年 今 野 忠 一 展	9/6-10/25
安 孫 子 真 人	裸 婦 など21点	真 下 慶 治 記 念 美 術 館	山 形 の 郷 土 作 家 油 絵 展	9/7-11/12
ピ カ ソ	剣 を 持 つ 男	ふ く や ま 美 術 館	ピ カ ソ 展 誰でもわかる天才の名画	9/8-11/28
シ ス レ ー	マ ン ト か ら シュワジ=ル=ロワへの道	練 馬 区 立 美 術 館	アルフレッド・シスレー展 印象派、空と水辺の風景画家	9/12-12/10
ク ー ル ベ	ジ ョ ー の 肖 像 美しいアイルランド女性 など5点	ド イ ツ 連 邦 共 和 国 美 術 展 示 館	日 本 が 愛 し た 印 象 派 Japan's Love for Impressionism : From Monet to Renoir	9/13-3/7
奥 山 儀 八 郎	ゴッホ「オヴェール教会」 など7点	寒 河 江 市 美 術 館	奥 山 儀 八 郎 こ こ ろ の 版 画 展	11/20-12/27
林 霞 峰 高 橋 由 一	湯 殿 山 道 中 略 図 山 形 景 観 画 集 4 点	山 形 大 学 附 属 博 物 館	山 を 見 る ひ と 五 百 澤 智 也 ・ 高 橋 由 一 ・ 江 戸 時 代 の 参 詣 者	11/20-1/30

平成 27 年度収蔵品貸出一覧

作 者 名	作 品 名	借受館又は借受者	貸 出 事 由	貸 出 期 間
桜井祐一	まどか	国際ソロプチミスト米沢	ブロンズ鑄造のため	11/23-3/24
高山辰雄 シャガール	聖家族 26点 逆さ世界のヴァイオリン弾き など9点	日本橋三越本店	吉野石膏 珠玉のコレクション展 愛 と 絆	1/12-2/6
服部五老 富樫景堂	青緑山水図 溪谷舟遊図	鶴岡アートフォーラム	庄内の美術家たち11 上洛の日本画家 服部五老と富樫景堂	1/27-3/9
モネ シスレー	サンジェルマンの森の中で モレのポプラ並木	東京国立博物館	生誕150年 黒田清輝 - 日本近代絵画の巨匠	3/5-
ルノワール	少女の頭部 花帽子の少女	京都市美術館	光紡ぐ肌のルノワール	3/11-